

エピソード

6.1.4 JPL 技術者 L.K.Skjerve 氏

塩見正

1984 年の K-3 による JPL との DVLBI 共同実験では、鹿島局では JPL から搬送された Mark-II バックエンド装置を使用しました。そのために JPL から技術者 L. K. Skjerve 氏が来日し、実験期間中、鹿島のホテルに滞在しました。その彼が、実験機器の準備中にあるコードの配線をする時に、親指と人さし指の爪でビニール外皮をむきちぎったのを見ました。私達ならニッパーを使うところです。腕力があり入れ墨がちょっとある軍隊経験も



あるような風貌の人でしたが、その彼が鹿島のホテルのことが話題になったとき、「・・・ダーティムービーがあって・・・」と言ったのを覚えています（風貌に似合わずおそらくは敬虔なキリスト教徒かなどと勝手に想像した次第）。共同実験のほぼ 1 年



後の 1985 年の 7 月から 2 か月間、筆者が JPL に滞在した機会に、彼の案内でカリフォルニア州の NASA ゴールドストーン深宇宙追跡局を見学しました。その帰りに彼の自宅（ゴールドストーン局の最寄りの町バーストリーにあるモバイルホームだった）を訪問、食事をいただきましたが、彼の奥様というのが若い



美人だったというおまけもありました。（塩見）

写真：鹿島で L.K.Skjerve 氏と衛星管制課の磯貝、鈴木、澤田各氏
カリフォルニア州バーストリーで L.K.Skjerve 氏夫妻
ゴールドストーン地球局のアンテナの一つ（人物は Skjerve 氏）